

# 安曇野市水道ビジョン

計画期間：平成29年度～令和8年度

## 令和元年度 事業評価報告書

令和2年10月

安曇野市 上下水道部

## 安曇野市水道ビジョンの基本目標と基本方針について

厚生労働省では、時代や環境の変化に対して的確に対応しつつ、水質基準に適合した水が、必要な量、いつでも、どこでも、誰でも、合理的な対価をもって、持続的に受け取ることが可能な水道を理想像として掲げています。

安曇野市の水道も将来像の実現に向けて、様々な課題の解決に取り組むため、その取り組みの目指す方向性を次のように定めています。



### いつ飲んでも安全な水道

いつでもどこでも、安全に飲める水道を目指します。



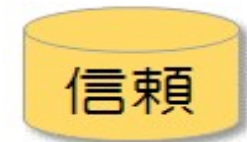
### 災害に強く、しなやかな水道

自然災害等で被災した場合でも、迅速に復旧できる水道を目指します。



### いつまでも地域にあり続ける水道

給水人口や給水量の減少に対しても、健全かつ安定的な事業運営が可能な水道を目指します。



### 皆様に信頼され、共につくる水道

多様化するニーズに応え、世代を超えて利用される水道を目指します。

# 安曇野市水道ビジョンの施策体系について

## 基本理念

清らかで良質な水をいつまでも  
～信頼を未来へつなぐ安曇野の水道～

基本目標	主要施策	実現方策
<b>安全</b> いつ飲んでも 安全な水道	<ul style="list-style-type: none"> <li>水源から蛇口までの徹底した水質管理</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 水質検査結果の適切な把握と関係機関との連携</li> <li>2 水安全計画の策定</li> <li>3 水質事故発生時の行動マニュアルの作成</li> <li>4 水道管内の点検と洗浄</li> <li>5 濁度計の設置</li> </ol>
<b>強靱</b> 災害に強く、 しなやかな 水道	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害に強い施設の整備</li> <li>バックアップシステムの構築</li> <li>危機管理体制の充実強化</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 指定避難所等重要給水施設への給水ルートの耐震化</li> <li>2 非常用電源設備の整備</li> <li>3 他水源からの配水が可能となる施設整備</li> <li>4 防災訓練の実施</li> <li>5 震災等を想定した災害対策マニュアルの作成</li> </ol>
<b>持続</b> いつまでも 地域にあり 続ける水道	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画的な施設更新と規模の適正化</li> <li>経営基盤の強化</li> <li>未普及地域への対応</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 老朽管の計画的な更新と漏水調査の実施</li> <li>2 水源施設の老朽化診断</li> <li>3 アセットマネジメントの実践</li> <li>4 施設の統廃合やダウンサイジングの検討</li> <li>5 人口減少地域における消火施設のあり方の検討</li> <li>6 水道料金水準の適正化の検討</li> <li>7 水道への切り替えの推進</li> </ol>
<b>信頼</b> 皆様に信頼さ れ、共につく る水道	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者とのコミュニケーションの充実</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 情報公開の充実</li> <li>2 施設見学会の実施</li> <li>3 水道利用者のニーズの把握</li> </ol>

令和元年度の水道ビジョン進捗状況を

点検・評価しました。

□点検評価基準

昨年同様、以下の基準により点検・評価を行いました。

例：令和元年度末の「濁度計の設置」

- ・20箇所（100%）設置が最終目標値
- ・平成29度～令和元年度末までに3カ所設置（計画当初は5カ所設置済、25%整備）
- ・実績率は8カ所/20カ所で40%（小数点切捨て）
- ・ $40\% \div 45.5\% \times 100 \approx 87\%$

評価基準		
達成率	評価	
95%以上	A	目標とおり
95%未満 85%以上	B	目標をやや下回る
85%未満	C	目標を下回る

定量的な評価が難しい項目について

達成率について、定量的な評価が難しい項目は下記一覧表で「空欄（目標値備考欄：定量困難）」となっていますが、以下の要領で評価します。  
 「具体的に〇〇に取り組んだ。」 「予定していた事業を完了し、予定通りの成果が出ている。」場合は「A」  
 「〇〇を検討している。」 「取組を開始してる。」場合は「B」  
 「未着手」の場合は「C」。

(単位：%)

実現方策			年次毎目標値②（水道ビジョン方策数値年度按分）										目標値備考	策定時数値 a	中間目標値 b	最終目標値 c	ビジョン掲載ページ	
			1年目 H29度	2年目 H30度	3年目 R元度	4年目 R2度	5年目 R3度	6年目 R4度	7年目 R5度	8年目 R6度	9年目 R7度	10年目 R8度						
安全	20件																	
	1	水質検査結果の適切な把握と関係機関との連携													定量困難			
	2	水安全計画の策定	-	50	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	進捗率	0	100	100
	3	水質事故発生時の行動マニュアルの作成	-	50	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	進捗率	0	100	100
	4	水道管内の点検と洗浄													定量困難			
強靱	5	濁度計の設置	-	35.25	45.5	55.75	66	66	74.5	83	91.5	100	100	整備率	25	66	100	
	1	指定避難所等重要給水施設への給水ルートの耐震化	-	27.98	33.45	38.93	44.4	49.88	55.36	60.84	66.32	71.8	71.8	耐震化率	22.5	44.4	71.8	
	2	非常用電源設備の整備	-	-	-	-	25	-	43.75	62.5	81.25	100	100	整備率	25	25	100	
	3	他水源からの配水が可能となる施設整備	-	33.33	66.67	100	-	-	50	100	-	-	-	-	整備率	-	-	-
		(1) 豊科・明科地域整備事業	-	33.33	66.67	100	-	-	-	-	-	-	-	-	整備率	-	100	100
	(2) 穂高豊里整備事業	-	-	-	-	-	-	50	100	-	-	-	-	整備率	-	-	100	
持続	4	防災訓練の実施												定量困難				
	5	震災等を想定した災害対策マニュアル	-	-	100.00	-	-	-	-	-	-	-	-	進捗率	0	100	100	
	1	老朽管の計画的な更新と漏水調査の実施	78.64	79.38	80.12	80.86	81.6	82.36	83.12	83.88	84.64	85.4	85.4	有収率	77.9	81.6	85.4	
	2	水源施設の老朽化診断（14か所）	21.4	42.8	64.2	78.4	92.6	100	-	-	-	-	-	調査率	0	92.9	100	
			3/14	3/14	3/14	2/14	2/14	1/14										
	3	アセットマネジメントの実践													定量困難			
	4	施設の統廃合やダウンサイジングの検討	-	-	50	-	75	100	-	-	-	-	-	-	進捗率	0	75	100
(1) 豊科・明科地域整備事業		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	進捗率	-	-	-	
(2) 明科潮沢系施設の再構築		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	進捗率	-	-	-	
5	人口減少地域における消化施設のあり方の検討													定量困難				
6	水道料金水準の適正化の検討													定量困難				
7	水道への切り替えの推進													普及率	99.3	99.6	100	
信頼	1	情報公開の充実												定量困難				
	2	施設見学会の実施												定量困難				
	3	水道利用者のニーズの把握												定量困難				

## 安曇野市水道ビジョンの令和元年度施策の点検評価結果

### 1 令和元年度施策の点検評価結果の概要

実現方策20件のうち来年度以降の施策1件を除く19件について評価した結果、A評価10件、B評価5件、C評価4件となった。C評価の施策の要因の殆どが未着手によるもので、課題を解消し目標達成を目指す。

### 2 基本方針別の評価結果と今後の課題・方向性

#### (1)安 全

- ・徹底した水質検査により安全性を確認することができた。今後も適切な水質管理を行う。
- ・目標未達成の「水安全計画の策定」の作成に関しては素案を作成したが、水質事故発生時行動マニュアル作成と並行して作業を進める。

#### (2)強 靱

- ・耐震化(主要管路整備)はおおむね順調に進んでいるが、今後は市街地における施工を伴うため、入念な給水ルートの確認が必要である。
- ・豊科・明科地域整備事業は令和2年度の完了に向け、綿密な工程管理を組みながら進める。

#### (3)持 続

- ・施設更新と規模の適正化についてはおおむね順調に進んでいる。
- ・老朽化診断において、今後予定している水源施設で既に調査済の施設が含まれているため、今後診断箇所の調整を行う。
- ・合併後の大きな課題であった水道料金の統一ができた。
- ・「人口減少地域における消火施設の在り方の検討」、「水道への切り替えの推進」に関しては、未着手であるため作業の早期着手を図る。

#### (4)信 頼

- ・既に水道は普及浸透しているため、利用に関する要望は多く寄せられないが、水道に対するニーズ等の把握のためアンケートを実施しサービス向上を図る。
- ・水質検査結果や水道事業会計の財務状況など情報発信はしているが、より水道の大切さを理解してもらうために利用者とのコミュニケーションの充実を図る。

基本目標	ビジョン	主要施策	実現方策 (計画期間)	最終目標値	H30までの 実績率	令和元年度					コメント欄	
						単年度目標	単年度実績	年次目標値	最終目標値 に対する 実績率①	達成率		評価
安全 いつ飲んでも安全な水道	34	水源から蛇口までの徹底した水質管理	1 水質検査結果の適切な把握と関係機関との連携  (H29～R8)	-	-	①水質検査の公表を毎月更新で実施 ②水質異常の際は関係機関へ即座に水質検査を実施依頼を行う ③畑作地帯の水源水質結果の推移の確認	①毎月実施できた。 ②関係機関との連携は問題なく実施できた ③水質検査の結果、数値はすべて基準値以内であった。	定量的な評価が困難な項目	-	-	A	成果 水質検査により安全性を確認できた。  課題 特になし。  今後の方向性 引き続き水質検査の推移を確認していく。
			2 水安全計画の策定  (H30～R元)	100%	0%	水道システムの評価を行い、管理措置の設定し、水安全計画を策定する。水道施設の各システムを災害時に関係者が操作できるようにするためのマニュアルを作成する。	水安全計画の素案を作成した。	進捗率 100%	-	-	C	成果 -  課題 人材不足による水質管理や維持管理等技術の継承。技術職員の不足や施設数が多いため、運転管理マニュアル等の整備に時間がかかる。  今後の方向性 現在策定作業中。管理手段の検討等を行い、水質事故発生時の行動マニュアルの作成と並行して進めていく。
			3 水質事故発生時の行動マニュアルの作成  (H30～R元)	100%	0%	水質汚染事故対策マニュアルの策定	現行の、水道水災害対策マニュアルの検証作業	進捗率 100%	-	-	C	成果 -  課題 水安全計画策定作業に時間を要しているため未着手状態。また、現行の水質事故発生対応マニュアルは、濁水に対する対応のみ。  今後の方向性 現行のマニュアルを基として、行動マニュアルの再整備を早期に着手する。
			4 水道管内の点検と洗浄  (H29～R8)	-	-	豊科地域排泥管20か所設置。	豊科地域排泥管11か所設置（必要箇所精査により11か所の設置となった）。	定量的な評価が困難な項目	-	-	A	成果 豊科地域の管洗浄を見据えた、大口径管への排泥施設増設により濁度発生時の排泥対応及びカメラ点検の可能な箇所が増えた。  課題 管洗浄の事前準備となる効率的なカメラ調査箇所の選定及び検討が必要。  今後の方向性 カメラ調査及び管洗浄可能な大口径管への効率的な設置を進める。
			5 濁度計の設置  (H30～R8)	100%	30%	①上長尾2号水源地に1基設置 ②上原3号井に1基設置 ③明科第2水源に1基設置	①と②は実施済  ③は令和2年度しゅん工（2年工期）  2箇所設置	整備率 45.5%	40%	87%	B	成果 三郷上長尾配水池系統及び上原配水池系統に対しては濁度対策が進んだ。  課題 設置費用が高額のため、中長期的な設置計画の見直しを要す。  今後の方向性 設置箇所の見直しを検討する。
計画当初5か所設置済。H30は1箇所設置により計6か所へ。 令和元年度は2か所設置。 最終目標は20か所設置。8か所/20か所=40% 40%÷45.5%×100≒87%												

基本目標	ページ	主要施策	実現方策 (計画期間)	最終目標値	H30までの実績率	令和元年度					コメント欄	
						単年度目標	単年度実績	年次目標値	最終目標値に対する実績率①	達成率		評価
強靱 災害に強く、しなやかな水道	39	災害に強い施設の整備	1 指定避難所等重要給水施設への給水ルートの耐震化  (H30～R8)			主要管路整備 豊科・三郷・穂高 計L=2,270m	主要管路整備 三郷L=910.0m 穂高L=894.6m 計L=1,804.6m (1.8km)  当初耐震化率22.5% 4.7km (H30～R1) 14.6km (整備前) 64.7km (目標値)	耐震化率 33.38%	29.8%	89%	B	<p>成果</p> <p>水源から拠点配水池に接続している導水管、災害時の避難所や病院等の重要給水施設と拠点配水池を結ぶ給水ルートの耐震化を、計画どおり進めることができた。</p> <p>課題</p> <p>穂高地域の配水管による給水ルートの工事へ着手し、市街地での施工へと移行するため、綿密な工事施工計画が必要となる。三郷地域も継続的に次年度の計画を進める。</p> <p>今後の方向性</p> <p>予定通り順次耐震化を進めていく。</p>
			2 非常用電源設備の整備  (R5～R8)		令和5年度：上原・豊里、令和6年度：川西、令和8年度：上長尾・宮城・堀金							
	バックアップシステムの構築	3 他水源からの配水が可能となる施設整備  (豊科・明科地域整備事業分 H29～R2)		送配水管布設工事 L=1,508m見込	送配水管布設工事の実施。 L=2,699m	整備率 66.67%	80.5%	121%	A	<p>成果</p> <p>当初計画どおり、8、9、10、11工区の布設工事を完了し、第2水源改修工事の着手及び7工区を前倒しで完了することができた。</p> <p>課題</p> <p>事業最終年度に向け、事業の前倒しでの推進ができた。運用に伴う切替計画の検討及び作業が必要となる。</p> <p>今後の方向性</p> <p>令和2年度の事業完了を目指し作業を進める。</p>		
39	危機管理体制の充実強化	4 防災訓練の実施  (H29～R8)  *経営管理課	10回	2回	年1回以上実施。  安曇野市総合防災訓練の実施と併せ、災害対策本部を立ち上げ、関係機関と共に招集訓練・図上シミュレーション・被害状況確認訓練等実施。	9月1日(日)に実施。  大規模地震を想定した防災訓練を応援事業者と合同により実施できた。	定量的な評価が困難な項目	-	-	A	<p>成果</p> <p>訓練の実施により、迅速かつ的確な応急対策の諸活動の確認を行った。</p> <p>課題</p> <p>当分想定災害は震災をテーマとして行うが、今後テーマを変えた取り組みを検討する。</p> <p>今後の方向性</p> <p>継続的に緊張感をもった訓練となるよう体制を整える。</p>	
		5 震災等を想定した災害対策マニュアル  (R元)  経営管理課	100% ※毎年度確認し、必要により改訂予定	100%	道事業、下水道事業で災害、事故が発生した場合、通常給水・通常排水の早期の回復と、応急給水の実施などの応急対策の諸活動を迅速かつ的確に実施できる体制を作り、災害・事故対応を適切に行うこと。	現段階で考えられる災害に対するマニュアルを策定済。	進捗率 100%	100%	100%	A	<p>成果</p> <p>成果は、今後確認する予定。</p> <p>課題</p> <p>今後、想定できない災害も発生する可能性がある。</p> <p>今後の方向性</p> <p>情勢に併せ、マニュアルの改正を行う。</p>	

基本目標	ページ	主要施策	実現方策 (計画期間)	最終目標値	H30までの 実績率	令和元年度					コメント欄
						単年度目標	単年度実績	年次目標値	最終目標値 に対する 実績率①	達成率	
持続 いつまでも地域にあり続ける水道 1 / 2	42	計画的な施設更新と規模の適正化	1 老朽管の計画的な更新と漏水調査の実施  (H29～R 8)	配水管（老朽）布設替工事 17路線 L=6,627m見込。	21路線 L=3,801.6m実施。予定箇所 の精査により実施。	有収率 80.12%	81.10%	101%	A	成果 当初見込みの配水管布設替予定箇所の実施と延長の精査により、緊急性の高い漏水多発箇所の対応が迅速に行うことができた。	
			堀金地区の漏水調査を実施	配水管延べ73km及び給水管の配水管漏水調査実施 計8か所の漏水確認後、全て漏水修繕を実施	課題 老朽管の計画的な布設替は重要だが、他の事業と並行して実施していくので、施工延長を伸ばすことが難しい。漏水調査は、漏水発生箇所を中心に進めていくが調査範囲の絞り込みが容易でない。						
			2 水源施設の老朽化診断  (H29～R 4)	調査対象箇所の再検討	作業実施により安定配水に懸念がある箇所があるため、懸念材料の確認と、施設の経過年数や、調査可能な井戸なのか精査した。	調査率 64.2%	35.7%	56%	B	成果 未実施であるが、令和2年度以降の実施計画を立てることができた。	
			3 アセットマネジメントの実践  (H29～R 8)	①布設（替）する全ての铸铁管にポリスリーブ巻を行う。  ②更新については、設備投資計画及び目標値を設定し更新する。	①布設（替）工事の铸铁管全てにポリスリーブ巻を施工。  ②投資計画及び目標値に基づき翌年度の実施計画を策定済。	定量的な評価が困難な項目	-	-	A	成果 ポリスリーブ巻は铸铁管すべてにおいて実施。投資計画に基づく次年度施工予定箇所については、事前設計を行い効率的に発注し施工できた。	
			4 施設の統廃合やダウンサイジングの検討  (豊科・明科地域整備事業分 H29～R 2)	配水池3池廃止し光配水池に統合する。	光配水池との送水管・配水管の布設工事実施した。	定量的な評価が困難な項目	-	-	A	成果 豊科・明科地域整備事業を（H29～R 2）計画とおり実施した。	
5 人口減少地域における消火施設の在り方の検討  (H29～R 3)	地域住民と防災担当と協議体制の構築。	未実施	定量的な評価が困難な項目	-	-	C	成果 防火水槽の設置には、広い土地が必要になります。設置場所として、地域集会所の駐車場（公用地）等が考えられるが、場所の確保が難しい。				

昨年度の評価と同じであるが、安定配水を配慮し今後の計画を立てたため、未実施であるがB評価とした。

H29度3/14カ所、H30度3/14カ所予定  
H29度3カ所+H30度実績2カ所＝計5カ所設置済。  
5÷14×100=35.7%



水道ビジョン点検・評価シート

基本理念：清らかで良質な水をいつまでも

【計画期間：平成29年度～令和8年度】

上水道

基本目標	ページ	主要施策	実現方策 (計画期間)	最終目標値	H30までの実績率	令和元年度					コメント欄	
						単年度目標	単年度実績	年次目標値	最終目標値に対する実績率①	達成率		評価
持続 いつまでも地域にあり続ける水道 2 / 2	42	経営基盤の強化	6 水道料金水準の適正化の検討  (H29～R8)  <b>経営管理課</b>	100%	100%	令和元年10月から改定料金による検針・徴収を実施。	予定通り実施。また、料金改定に伴う市民からの問合せに対応できた。	定量的な評価が困難な項目	-	-	A	成果 地域毎に異なっていた料金が統一できた。  課題 経営実態の把握を適切に行う。  今後の方向性 ・今回は5地域の料金格差の解消の料金改定であったが、今後は経営実態に見合った料金改定の検討が必要。
			7 水道への切り替えの推進  (H29～R8)  未普及地域への対応	-	-	水道普及率が水道ビジョン策定時に99.3%と高数値であり、ほぼ普及している状況であるため、接続要望相談の際は個別に対応を行う。併せ、水質検査結果を市ホームページで公開。	未実施	定量的な評価が困難な項目	-	-	C	成果   課題 「井戸水を利用している世帯」との条件だけで把握すると、家の前の道路に水道管が布設されていない場合、そこまでの水道管布設費用を市で負担する必要がある。  今後の方向性 給水区域内で、自宅前の道路に水道管が布設されていて、井戸水だけで生活している世帯を把握し、名簿を作成し個別相談をして給水世帯（人口）を増やしていく。
信頼  皆様に信頼され、共に つくる水道	44	利用者とのコミュニケーションの充実	1 情報公開の充実  (H29～R8)	-	-	安曇野市ホームページで毎月水質検査結果を更新する	安曇野市ホームページで毎月水質検査結果を更新した。	定量的な評価が困難な項目	-	-	A	成果 水質状況や経営状況を的確に発信できた。  課題 よりわかりやすい広報のため、内容の充実が必要。  今後の方向性 水質検査、経理関係の情報公開は継続して実施を行う。子供向けコンテンツの充実を図る。
			2 施設見学会の実施  (H29～R8)	-	-	公開講座、地域からの要請により施設見学会をその都度開催する。 (年1回)	小学生を対象に施設見学会を実施し、水の大切さや市の水道状況について説明した。また、11月に豊科本村地区防災訓練に給水車を出し、地区の皆さんに講習会を開催した。					定量的な評価が困難な項目
			3 水道利用者のニーズの把握  (H29～R8)	-	-	市民意識調査の実施に合わせて水道についての設問を加えて、年度末までに調査を実施する	令和元年度3月に市民意識調査を実施した。	定量的な評価が困難な項目	-	-	B	成果 「水道水について」6項目の質問を実施しました。  課題 市民意識調査に合わせての実施になるので、設問数が限られる。設問内容の優先順位もよく検討したい。  今後の方向性 市民意識調査に合わせて実施していく。

令和元年度の財政計画と決算比較表

単位:千円、税抜

収益的収支		財政計画 A	R元決算額 B	比較 B-A	説明
収入	1 営業収益	1,880,705	1,865,572	▲ 15,133	
	うち給水収益	1,732,117	1,711,404	▲ 20,713	年間給水量の減による
	2 営業外収益	287,019	281,851	▲ 5,168	
	うち長期前受金戻入	277,896	278,894	998	
	3 特別利益	0	70	70	
収入計 ①		2,167,724	2,147,493	▲ 20,231	
支出	1 営業費用	1,673,132	1,627,352	▲ 45,780	動力費等の削減のため減
	うち減価償却費	1,070,277	1,054,449	▲ 15,828	工事請負費等の削減のため減
	2 営業外費用	138,947	135,661	▲ 3,286	
	うち支払利息	135,970	133,117	▲ 2,853	
	支出計 ②	1,812,079	1,763,013	▲ 49,066	
経常損益 ①-②		355,645	384,480	28,835	

単位:千円、税込

資本的収支		財政計画 A	R元決算額 B	比較 B-A	説明
収入	1 企業債	151,000	93,000	▲ 58,000	起債対象事業の減
	2 他会計出資金	119,300	279,100	159,800	令和2年度計画分事業の令和元年度前倒しによる増
	3 補助金	80,000	8,588	▲ 71,412	補助対象事業の減
	4 工事負担金	28,965	24,891	▲ 4,074	
	5 その他(分担金)	42,514	41,007	▲ 1,507	
	収入計 ①	421,779	446,586	24,807	
支出	1 建設改良費	1,244,354	1,287,187	42,833	令和2年度計画分事業の令和元年度前倒しによる増
	2 企業債償還金	571,249	570,926	▲ 323	
	支出計 ②	1,815,603	1,858,113	42,510	
資本的収入が支出に不足額 ①-②		▲ 1,393,824	▲ 1,411,527	▲ 17,703	
補填	補填財源(損益勘定留保資金)	906,484	823,684	▲ 82,800	令和2年度計画分事業の令和元年度前倒しにより、前倒し分を建設改良積立金から補填したため。
	補填財源(建設改良積立金)	400,000	480,000	80,000	
	補填財源(消費税調整額)	87,340	107,843	20,503	
	計	1,393,824	1,411,527	17,703	
年度末補填財源残高		2,139,293	3,295,269	1,155,976	当期純利益の増
企業債残高		6,230,327	6,125,655	▲ 104,672	企業債借入額の減

※水道ビジョン掲載ページ 52ページ